

—文化の薫る活力ある地域づくりをめざして— 財団では、このような事業を行っています。

普及啓発事業

1. 財団ニュース「作州路」24号の発行

2. 普及講座の開催

アーティストトーク
「美作」から始まるアートシーン

対談／築山弘毅（画家）
小林正秀（写真家）
吉尾梨加（洋画家）

期日／令和3年3月7日（日）
会場／勝央美術文学館



「アーティストトーク」の様子

3. 事業協賛に伴うPR活動

「金時祭花火大会」への協賛【中止】

芸術文化活動事業

【主催事業】

■公募展の開催

○第17回ミマサカコドモ絵画展

会期／令和3年1月6日
～令和3年1月31日

会場／勝央美術文学館
展示室・町民ギャラリー1・2



「ミマサカコドモ絵画展」会場風景

■作品展の開催

○gallery exhibition vol.33

築山弘毅展 INDEX
会期／令和3年2月20日
～令和3年3月21日

会場／勝央美術文学館
展示室・特別展示室
町民ギャラリー1



「gallery exhibition vol.33
築山弘毅展 INDEX」会場風景

■講演会の開催【中止】

○舞の海秀平講演会

「私の相撲人生-夢は必ずかなう」
とき／令和2年6月21日
会場／勝央文化ホール

【共催事業】

■企画展の開催

《文学》

○小企画39
「木村毅とスポーツII」〈第1期〉〈第2期〉

《美術》

○コレクション展 vol.42
郷土の画家シリーズ「算術の」
〈第1期〉〈第2期〉

【助成事業】

芸術文化活動助成

○勝央金時太鼓保存会活動
○勝央町文化協会活動事業

【後援事業】

Lowland jazz による
JAZZ FOR THE YOUNGER GENERATION 【延期】

Dual KOTO×KOTO コンサート 【動画配信】

劇団四季 勝央公演
人間になりたがった猫 【中止】

文化財資料収集保存事業

文化財保護保存事業助成

○高山 始 襷絵「桂林秀景図」修復事業

その他の事業

・学術的研究及び図書の発刊事業への
助成事業を継続しておこなっております。

地域の文化活動を応援します！

地域芸術文化振興のための助成活動を実施
しております。詳しい内容は、財団事務局へ
お尋ねください。

当財団への皆様のご寄付を お待ちしております！

当財団への皆様のご寄付は、地域文化事業の
実施に役立てられています。

ご寄付をいただいた皆様は、税額控除をうけ
ることが出来ます。

編集後記

本紙の『出雲街道宿場考』へご寄稿いただいた、
岡本良規様のお誘いを受け、文化財保護委員長の
赤木耕三様や岡地区の歴史に詳しい椋井富士代様
とご一緒に、岡山県勝田郡勝央町東吉田にある
東光寺の〈油地藏〉を取材しに行きました。取材
当日は生憎の雨でしたが、赤木文化財保護委員長
のご解説を伺いながら、石仏に刻まれた文字を撮
らせていただきました。掛けられた油で石仏様が
神々しく光り輝いておられ、ご加護を願う人々の
祈りの強さがうかがえました。(E.N)

表紙について【下山中 作<在りし日の出雲街道>】

江戸時代には、岡山県勝田郡勝央町の岡地区を西は
出雲から東は姫路に達する「出雲街道」が、通って
いました。おそらくは、水田が広がる田舎道を、それぞ
れの目的で、多くの人々が往来していたことでしょう。
そして、その旅の無事や、地域の人々の安寧を願い、
谷奥の石場から石工たちが、心を込めて切り出した石
を削り大石仏を作って辻に祭ったのでしよう。この絵
はその様な石仏が十王堂にあったことを想像し、画家
の下山中氏が、同様に地域のために思い起こして描かれたものです。



作州路

Vol. 24
2021/3



岡地区特色ある地域づくり（古を訪ねて） 岡本 良規

平成25年（2013年）勝央町特色ある地域づくり事業で、岡地区歴史探訪というテーマで携わらせて
頂いて今年で8年が経過しました。今回、『作州路』〈出雲街道宿場考〉の編集に携わってみたいか？
と声をかけて頂き、特色ある地域づくり当時のことを思い返しながら、編集した次第です。岡地区は古
くよりの街道（出雲街道）が通っており、古の人々の多くの歴史があり、特色ある地域事業で気づ
けなかった事や当時出来なかった事を今回テーマとして記します。最後まで一読頂ければ幸いです。

古の出雲街道（岡村）

岡本 良規

◎【岡の十王堂】と【吉田の油地蔵】（県重要文化財）

平成 27 年、本（『古を訪ねて』）を手に岡地区を訪ね歩く方々がおられて聞いてみると、奈義町の【さんぶたろう研究会】の方々が、「岡地区にあったと云われている十王堂を探している。御当地で何か伝承は知られないか？」ということで、当時岡地域の長老方々に聞いても「十王堂は知らないが『じおう』という字名はある」ということしか解答できない状況で、当然、本（『古を訪ねて』）にも記載されないうでいた。

ところが、当時発見された岡村の古地図（個人所蔵）の一部に「十王」という記載（図 1）があり、このあたりの字名を町役場で調べたところ、字名が「十王」となっており、時代の流れとともに、「十王」が「じおう」と伝承されている事に気がついた。その場所は江戸時代の出雲街道沿いにあたる。



図 1 勝南郡岡村絵図（部分）

と同時にこのあたりの字名に「天王」とか「王（皇）子」とか「十王」とか、やたら王（皇）という字が多くあり、何かおくゆかしい地名であり郷土の誇りのような字名とも感じている方が多い。昔、岡地区に十王堂があったのではないかと確信しはじめ、古文書（『東作誌』：正木兵馬編集）を調べてみると岡村の十王堂に関する記述（図 2）があり、丈八尺の大像である事や間山との関連性など「三穂太郎」の逸話が記載されている。また、文書の後半に「銘あり康暦二年庚申二月廿九日午時立願

主敬白圓佛建とあり…」とある。

『東作誌』とは江戸時代後期に津山藩兵学指南役 正木兵馬によって編さんされた美作国東部地域の地域誌で当時の様子を現代に伝えている。また、筆者の正木兵馬の名は勝間田宿に伊能忠敬測量隊がきた時の伊能忠敬日誌にも記載されており、地域誌づくりにより奔走していた経緯が伺える。よって正木兵馬自身でこの

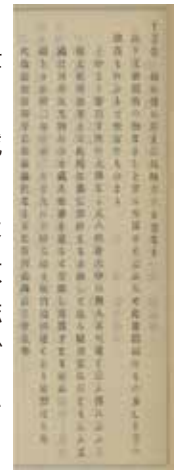


図 2 東作誌

銘文を記録し誌に記載したものと考えられる。そこで、この銘文のある大像は今何処にあるのだろうか？岡地区内には見当たらないと思っていたところ、知人から銘文のある大像を知っているので見に行かれたらと勧められ、今回関係者で、その場所（東吉田の東光寺前の油地蔵）へ『東作誌』に記載された銘文の確認調査に行った。（図 3）



図 3 東光寺油地蔵と「康暦二年庚申二月廿九日午時立願主敬白圓佛建」の銘文が刻まれた光背（部分）

【調査結果】

- 『東作誌』記載の銘文を東光寺油地蔵で確認。
 - 「勝南郡岡村絵図」や字名から、当時十王堂が、岡村にあった。
 - 『東作誌』の十王堂は岡村に記載されている。
- 以上の事から、

・東光寺前の油地蔵（県重要文化財）は、江戸時代には岡村にあった（推定）。

・何らかの事情で引越しをし現代に至っている。との考察結論に至った。

この事から、昔岡村にあった十王堂はどんな風景だったのだろうか？を想像しながら下山中先生に、今回筆をふるって頂き、本紙の表紙とした。

◎岡村はどんな村だったのだろうか？に思いを馳せると・・・

現在の岡地域は、常会数 19、人口 1200 人超と大きな集落となっているが、江戸時代文化年間の資料によると岡村の人口が 229 人、石高は 672 石とあり、比較的豊かな米どころであり、出石藩の所領地ということもあり金比羅神社の石塔などから他村との交流が盛んな地域であった事が伺える。また、現代においては少なくなったが、各家々に屋号があり、近代まで「○○（屋号）の○○さん」など苗字ではなく、屋号で呼び合う地域である。（表 1）

岡地域の屋号

*小中	*本村	*立石
・尾畑 おぼたけ	・御家 おえ	・岡出屋 おかでや
・尾花 おぼな	・天王 てんのう	・染屋 こうや
・坪 つぼ	・屋家 やけ	・染屋 あずまや
・表 おもて	・飯屋家 かりやけ	・日の出屋 ひのでや
・栄屋 さかえや	・大名家 おおほんけ	・角屋 かどや
・西脇 にしわき	・中屋 なかや	・入田屋 にゅうたや
・医者 いしや	・出中屋 でなかや	・上相屋 かみやや
・宮の埜 みやのたわ	・田中 たなか	・小中屋 こなかや
・新家 しんや 等々	・とうくろう ・森 もり ・宮の後 みやのうしろ ・宮の前 みやのまえ ・宮の下 みやのした ・寺 てら ・茶の山 ちゃやま ・坂口 さかぐち ・隠居屋 いんきょや ・南下 みなみした ・上の新家 うえのしんや ・北の新家 きたのしんや ・新宅 しんたく 等々	・田ご作 たごさく ・鍛冶屋 かじや ・綿打屋 わたうちや 等々
*西		
・西谷川 にしたにかわ		
・庄田 しょうだ		
・大西 おおにし		
・中西 なかにし		
・中寺 なかでら		
・杉ヶ谷 すがたに		
・井戸 いど		
・新宅 しんたく 等々		

表 1

困った時に「助けたり」「助けられたり」する共助が昔からあり、時代が変わっても人間関係は、お互いに作っていくものであり、岡地域に新たに居を構えられる方には、是非常会に加入して頂き、「助けたり」「助けられたり」をしていただきたいと願う。

◎【大きな石像】からわかる事、感じる事

今回の調査から油地蔵が岡村にあったとする

ならば、江戸時代中後期には 3 体の大石像（全て地蔵尊・表 2）あったと考えられ、他にも六面



表 2



図 4 一本松地蔵



図 5 道標地蔵

石塔地蔵尊（全長約 1m70cm）があり、六道輪廻思想が定着し信仰心深い地域であったことが伺える。一方でこのような石像を何処で制作し建立したのかを考えた時、気付く点がある。

岡村の長老から、「宮奥池の奥の方に昔石切場があって、金比羅山の階段に使われた。」と聞いている。古の時代に遠方から運ばれた事は考えにくく、この石切場で優れた石工の手によって制作されたものと考えられる。何れにせよ先人の膨大な労力と信心をかけてのものなので、現代に生きる私達にとって、しっかりと後世に伝える使命があると私は思っている。

■参考文献

- ・岡地区歴史探訪編集委員会 編 『古を訪ねて 岡地区歴史探訪』（平成 26 年）
- ・「勝南郡岡村絵図」（寛政 10 年）
- ・正木兵馬 編 『東作誌』（江戸時代後期）